

| | | | | | | |
|--------------|----------------------------------|------------------------------|-----------|-----------|-------|--------------------|
| 学校教育目標 | 南本小の子 ともに明日をつくる子 楽しみ学び続ける子 | | | | | |
| | 学校概要 | 創立 50 周年 | 学校長 世古 正樹 | 副校長 青島 大受 | 2 学期制 | 一般学級: 15 個別支援学級: 4 |
| 児童生徒数: 451 人 | | 主な関係校: 万騎が原中、さが丘小、二俣川小、万騎が原小 | | | | |

| | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 万騎が原中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| <言語能力> <自分づくりに関する力> | 万騎が原中学校、南本宿小学校、万騎が原小学校、さが丘小学校、二俣川小学校 | 自ら考え、自ら行動し、ともに未来を切り拓く子ども <small>「ブロック授業研究会では、テーマ「自分の考えをもち、友達と関わり合いながら学ぶ授業づくり」の実現に向けて、自分の考えをもったり自分で選択・判断したりする場面や、協働的な話し合いの場面の充実を図り、各教科等で実践・提案する。その際、効果的なICT等の活用について考えるようにする。 ・児童生徒交流では、音楽交流会や児童生徒交流会で、子どもが主体となって活躍する場面を設定する。また、日常的な交流についても工夫して行うようにする。</small> |

| | |
|--------|---|
| 中期取組目標 | <p>○全職員が「チーム南本」として、言語能力や自分づくりに関する力を育む教育に取り組むとともに、子ども一人ひとりの思いを大切にしたい学校づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人々と関わり伝え合う言語活動や、個別最適な学びを軸として、自分の考えを表現する力の育成をはかるようにする。 ・一人ひとりの子どもが自己有用感を持ち、安心して楽しい学校生活を送ることができるようにする。 ・他者の考えを理解しようとする態度を養い、自分らしさを発揮しようとする。 ・家庭、地域との連携方法を工夫し、積極的な参画を得て、地域に愛される学校づくりを進める。 |
|--------|---|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------------------|---|
| 知 授業改善 | 引き続き、児童の考えの形成や表現にまつわる資質・能力を重視した授業づくりの実践を積み重ねる。個別最適な学びに向けた単元計画や学習活動、手立てについての理解を深めていく。 |
| 徳 人権教育 | 子ども会議のテーマをもとに人権について話し合い、自分も友達もかけがえのない存在として大切に、多様な価値観を認めたり支え合ったりすることで、子どもたちが安心して学べる学校づくりを行う。 学年ごとの活動内容を児童の実態や発達段階に応じたものにし、系統立てて行う。 |
| 体 健康教育 | 子どもたちが楽しみながら安全に運動することができるよう体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や委員会活動などで、子どもたちのアイデアを生かした運営を目指す。 |
| 公開 ESDの推進 | 今年度は創立50周年を迎えるということもあり、昨年度までの経験を生かしながら、さらに地域や人とのかかわりを大切に活動を行っていく。 「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 |
| いじめへの対応 | 昨年度の取組を改善し、横浜子ども会議に向けた代表委員会を中心とした活動に、子どもたちの意見をしっかりと取り入れながら、児童の主体的な「いじめを防ぐ」活動になるように教職員が支援していく。 早期発見・早期対応ができるよう、職員の児童指導力の向上とチーム対応に努める。 |
| 人材育成・組織運営(働き方) | 人材育成を充実させるために、校内研修の計画的な実施を行う。ファシリテーターとの関わりの機会を増やすとともに、校内で相談しやすく連携をとりやすい環境づくりを行うなど、メンターチームの効果的な組織運営を図る。 |
| 地域学校協働活動 | 「学校と地域の協働～ふれあいの輪を広げよう～」というテーマをかかげた2年目として、本校創立50周年となる年に学校運営協議会や地域学校協働本部と連携し、児童の意見も取り入れながら、引き続き学校と地域が協働する学校運営や学習活動を実現するカリキュラムマネジメントをしていく。 |
| 特別支援教育 | 職員研修や自己研鑽により、教職員の障害理解をさらに深め、児童の困り感に寄り添った適切な支援を行っていけるようにする。児童の成長を信じて根気強く支援を続ける教師集団となれるよう、毎週の児童支援に関する職員研修や、外部機関によるコンサルテーションを十分に活用できるようにする。 |
| 児童生徒指導 | 普段から教職員は児童とのより良い関係づくりに努め、深い児童理解を大切に児童指導を行っていけるようにする。また、指導が必要な事案が発生した際には、その子の成長に必要な指導内容を適切に伝えることができるよう、職員間での迅速な情報共有とチーム対応力を発揮していけるようにする。 |
| 情報教育 GIGAスクール構想 | 引き続き、これまで積み重ねた実践を精査し、より効果的な使い方を教師が考えていくとともに、児童が自分たちでよりよい使い方を考えていけるよう指導を続けていく。また、個別最適な学びの助力となるようなICT機器の効果的な使い方を探り、それを実践していく。教員側に情報活用能力に課題がある場合が多々あるので改善する。 |
| 安全教育 | 地域防災拠点運営委員会や学援隊と協力し、子どもたちが自ら考え行動できる力を高めることにより、交通事故や犯罪に遭うことを未然に防止したり、災害等への対応力を高めたりできるよう、安全指導の充実に努める。 |